応募総数631点!「第30回日本医学会総会 2019 中部」市民展示 子ども向けプログラム

心に残る医療絵画コンクール

2019年3月から4月にかけて、全国の医療従事者約3万人が一同に会する「日本医学会総会」が名古屋を中心とした中部8県で開催されました。中日新聞では地元紙としてさまざまな取り組みを行い、学会を盛り上げました。

そのうちの一つが、「心に残る医療絵画コンクール」です。医学会総会では、医療従事者が集まる学術集会以外に市民に向けた市民展示も開催されますが、今回の市民展示では30万人の動員を目標に掲げていました。その達成に向けて紙面での広報以外の取り組みとして、中日新聞では医学会総会との共催で、この企画を実施しました。

コンクールでは、3歳から中学生の子どもを対象として、「描いてみよう！医療のおもいで・未来の医療」をテーマとした医療絵画を募集。新聞掲載のほか、医療機関にチラシを配布するなどして告知を行いました。その結果、東海エリアの幼稚園・小学校・中学校に通う子どもたち以外にも、全国の大学病院などに入院中の子どもたちからも応募があり、631点の力作が寄せられました。

表彰式には、受賞した子どもたちが島根県や大阪府からも来名いただき、とても心温まる式となりました。また、市民展示の開催期間中は応募いただいた全作品を会場に展示し、ご家族やお友達と会場を訪れた人々の目を楽しませました。

名古屋本社広告開発部 大谷朋子・橋本真実

▲2019年3月21日付 中日新聞・北陸中日新聞朝刊

※下部の連合広告部分は、地域ごとに切り替えて掲載しました。
(愛知県・滋賀県/岐阜県・三重県/長野県・福井県・北陸中日新聞)

▲市民展示期間中に行われた表彰式

▲▼会場で作品が展示されている様子

未来の病院、医療を絵に

名古屋大病院院内学級の児童5人 コンクールに合わせ

名古屋大病院（名古屋市昭和区）に長期入院する子どもたちが、未来の病院や理想の医療をテーマにした「医療絵画」を制作した。「こんな病院があったらいいな」と、遊園地や海上レストラン、病室から見える虹や花火など、自由に想像を膨らませた。

「医療絵画」を制作する院内学級の児童たち＝名古屋市昭和区の名古屋大病院で

描いたのは院内学級の小学部一年生五人。図工の授業を使い、七月上旬から中旬にかけて完成させた。

下西千鶴さん(8)は、虹や花火、花畑などをカラフルに表現。「床や天井が透明になっていて、病室から見えたらいい。一歳のとき、脳腫瘍が分かり、三度の手術を経験。入院中も外は制限されていることから、病室でも楽しめる仕掛けを考えた。乗り物が好きだという堀江七慈君(8)は、ジェットコースターや電車、ヘリコプターなどを描いた。「病院までいろんな乗り物で行けたら面白い」

制作は、子どもを対象にした「心に残る医療絵画コンクール」（中日新聞社共催）が九月に初めて開かれるのに合わせた試み。入院中の子どもたちは応募には関係なく取り組んだ。

コンクールの対象は幼稚園、保育園に通う三歳以上の幼児と小中学生。八つ切り画用紙にクレヨンや絵の具などで描く。応募期間は九月四～二十一日（必着）。実行委員長の高橋義博・名大病院小児科教授は「作品を通して、大人も一緒に良い医療とは何かを考える機会になってほしい」と話した。

入賞作品は中日新聞紙上で発表するほか、来春、名古屋市港区のポートメッセなごやで展示する。問中日新聞社広告局＝052(221)0701（河野紀子）

▲2018年8月18日付中日新聞朝刊 愛知県版

コンクール開催に合わせ、名古屋大学病院の院内学級では児童たちが「医療絵画」制作に取り組みました。

「心に残る医療絵画コンクール」開催概要

応募総数631点!

主　　催：第30回日本医学会総会 2019 中部
共　　催：中日新聞社
特別協賛：協和ケミカル株式会社、セントラル画材株式会社、名古屋名駅ロータリークラブ
応募資格：3歳以上の幼稚園・保育所に在籍する園児・児童、小学生、中学生
募集期間：2018年9月4日～21日

表彰・展示スケジュール

表彰式：2019年3月31日(ポートメッセなごや)
応募全作品展示：
2019年3月30日～4月7日(ポートメッセなごや)
優秀作品展示：
2019年5月14日～18日(セントラル・アートギャラリー)